



減煙カセットガスグリル（家庭用）

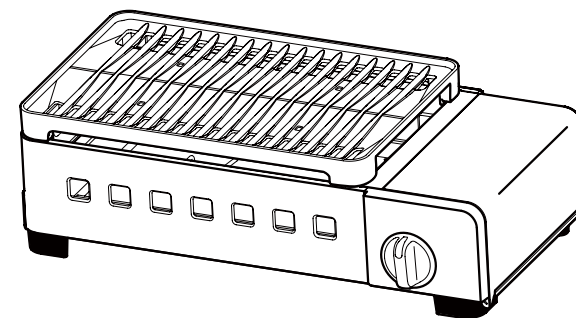
取扱説明書・保証書

YGM-GS1

山善減煙カセットガスグリルをお買上げくださいますありがとうございます。
ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みにになり、正しくご使用ください。
お読みにになったあとは大切に保管してください。

目 次

ご使用のまえに	表紙
1. 各部のなまえ	1
2. 特に注意していただきたいこと	1～5
3. 圧力感知安全装置が作動したときの処置方法	5
4. 仕 様	5
5. ご使用方法	6～8
6. 日常の点検・お手入れ	8
7. 故障・異常の見分け方と処置方法	9～10
8. アフターサービス	10
お客様の個人情報のお取り扱いについて	裏表紙
保 証 書	裏表紙



本商品は一般的なご家庭でご利用いただく減煙カセットガスグリルです。過酷な使い方、特殊なご使用をされますと、けがや火災など思わぬ事故の原因となったり、本商品の焼損のおそれがあります。本取扱説明書に記載されている内容にしたがい、正しくご使用ください。

ご使用のまえに

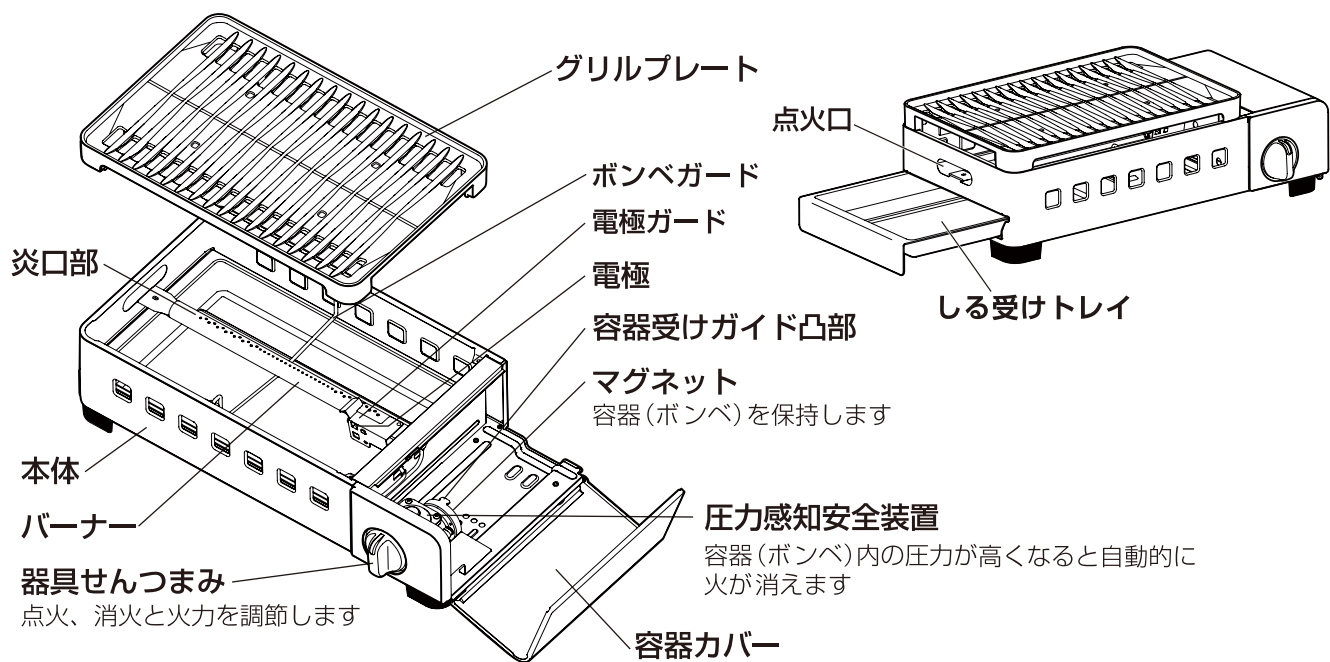
製品を正しくお使いいただくためや、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの取扱説明書および製品への表示では、いろいろな絵表示を使用しています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡または重傷を負う可能性があるもの
 注意	誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負ったり物的損害の可能性のあるもの

図記号には次のような意味があります



1. 各部のなまえ



2. 特に注意していただきたいこと

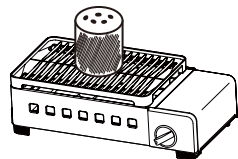
1. 使用容器(ボンベ)とその取扱いについて

1. 容器(ボンベ)の過熱禁止について

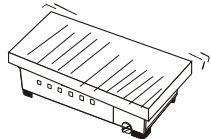


次のような使い方はしない。容器(ボンベ)が過熱し爆発の原因となります。

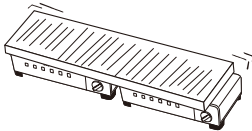
- 調理以外の用途(木炭・練炭の火起こしなど)での使用



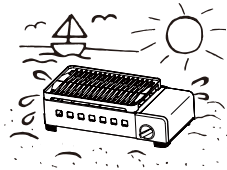
- 容器カバーを覆うような大きな調理器具(鉄板や大きな鍋、ジンギスカン鍋、たこ焼き鉄板や魚焼器)などの使用



- カセットガスグリルを2台以上ならべての使用



- 夏の砂浜など日光によって容器(ボンベ)が過熱するような場所での使用



- セラミック付焼網器、石板、陶板、セラミックを使用した焼肉器、石や砂、陶器などを使った焼きいも器、省エネごとく、省エネリング、ふく射熱の強い調理器具等の使用。また、アルミホイルなどで焼き網等を覆ったりする使用方法。食材をアルミホイルなどで包んでの調理



- グリルプレートの空焼き
本体内に熱がこもり、容器(ボンベ)が過熱して爆発するおそれがあります。またフッ素コーティングが焼損するおそれがあります。
- 火気の近くでの使用
- カセットガスグリルの周囲に燃えやすい物や予備の容器(ボンベ)を置いての使用



- 電磁(IH)調理器・電熱器など熱が発生する器具の上での使用や保管



- 付属品以外の使用



2. 容器(ボンベ)の取扱いについて



警告

火災や爆発事故などの危険がありますので、次のことを必ずお守りください。

- 容器(ボンベ)を火の中に入れない。



過熱、爆発し大きな事故になります。燃えるゴミに混入すると危険です。



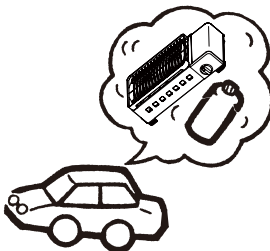
- 容器(ボンベ)はファンヒーターの前など熱気のあたる場所に放置しない。



熱で容器(ボンベ)の圧力が上がり爆発の原因となります。



- 容器(ボンベ)は涼しい場所に保管する。



火気や直射日光、室内や車内の窓際などを避け、風通しがよく湿気の少ない40℃以下の場所にキャップをして保管してください。塩分のある場所や冷蔵庫も避けてください。器具内に容器(ボンベ)を入れたままで絶対に持ち運びしないでください。また器具の使用後は容器(ボンベ)を取り外してください。



- 容器(ボンベ)はガスをなくしてから廃棄する。



1. 容器(ボンベ)を振ってシャカシャカと音がする時は、まだガスが残っています。そのまま温度の高い所に放置したり、ゴミに混入すると危険です。必ず完全に使い切ってから廃棄してください。

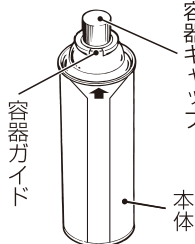


2. 完全に使い終わってから他のゴミと区別し、地域の取り決めにしたがって廃棄してください。



注意

- 専用の容器(ボンベ)を使う。



容器(ボンベ)は、クッキングファイヤーと表示のある専用容器(ボンベ)を使用してください。他の容器(ボンベ)を使用すると、ガス漏れなどの原因となります。

- ガスを故意に吸い込まない。

酸欠の原因となります。



- 強い衝撃を与えない。



ガスもれ、爆発の危険があります。



お願い

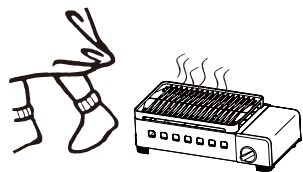
- 容器(ボンベ)に表示されている注意事項をよく読んでからご使用ください。
- 使用時は容器キャップをはずし、保管のときは容器キャップを取りつけてください。
- 容器(ボンベ)はときどき点検して、表面にさびが発生している時は、できるだけ早く使い切ってください。

2.火災予防

！ 警告

火災や爆発事故などの危険がありますので、次のことを必ずお守りください。

- 使用中は器具から離れない。



火をつけたまま外出したり、眠り込んだりしないでください。火災など思わぬ事故の原因となります。特に油気のあるものを料理している時は危険です。

- 使用中、近くに容器(ボンベ)やスプレー缶を置かない。(特に予備の容器(ボンベ)やヘアスプレーなど)

熱で容器(ボンベ)内の圧力が上がり爆発の原因となります。

- ヘアスプレーなど、引火のおそれのあるものを近くで使用しない。



火が燃え移ることがあり危険です。

- 子供だけで使わせない。

- カセットガスグリルのバーナー付近に顔や手を近づけない。

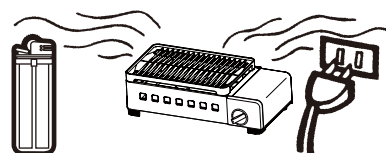
- 容器(ボンベ)がセットされていて、着火していないのに器具せんつまみが「消火」以外の位置にあると、ガス漏れをおこし危険です。

十分にご注意ください。

- 腐った玉ねぎのようなにおいがしたら、ガス漏れを起こしています。ボタンガスは空気より重く下にたまりますので、電気器具に触れずに、すぐに次の処置をしてください。

- ① 器具せんつまみを「消火」の位置に戻し、使用をやめる。
- ② 容器(ボンベ)をはずす。
- ③ 窓や戸を開けて、ガスを外に出す。

火気や火花で引火します。電気器具(換気扇など)の入れ切りや電源プラグの抜き差しはしないでまず上記の処置を行ってください。完全に換気ができるまでは火気は厳禁です。



- 絶対に改造・分解は行わない。特にガス通路部分は分解しない。

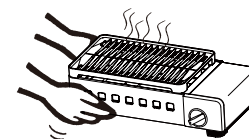
！ 注意

- 次のような場所では使用しない
- カーテンなどが触れそうな場所
- 燃えやすい物のそば
- 棚の下など、落下物の危険のある場所
- カセットガスグリルの下に段ボール紙など燃えやすい物や、熱に弱い物(たたみ、じゅうたん、ビニールクロス等)の上
- 熱に弱いガラスや樹脂製のテーブルの上
- 無煙ロースターなど排気する設備の近く



- 火のついたままの持ち運びをしない。

転倒するとやけどや火災の原因となります。



- 家具や壁など可燃物から15cm以上離して使用する。カセットガスグリル上方と可燃物の天井、棚、電気器具などの間は100cm以上離して使用する。

- 壁などが熱せられ低温火災のおそれがあります。
- 塗装、うるし塗りなど熱に弱いテーブルの上で使用するときは不燃性の断熱材を器具の下に敷いてください。

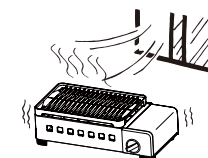


3.使用場所

！ 注意

- 強い風の吹き込む所は避ける。

炎が吹き消されることがあり危険です。



- 狭い場所や換気の悪い場所は避ける。

テント内や車内などの狭い場所では絶対に使用しないでください。

- 寒冷地での使用はさける。

気温が15℃以下のときは、十分な火力が得られない場合があります。

- 直射日光をさける。

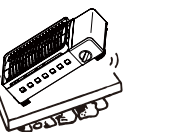
- カセットガスグリルの底部から空気や煙を吸込む場所はさける。
- 地面の涼しい所で使用する。

- 本体の底が砂や小石などで埋まる場所はさける。放熱が悪くなり、本体が焼損したり、容器(ボンベ)が過熱して、爆発する恐れがあります。



- 安定した水平な所に置いて使用する。

カセットガスグリルが傾いたり、滑り落ちると危険です。



4.使用上の注意

！ 注意

- 衣類の乾燥などに使用しない。

衣類が落下して火がつき火災などの危険があります。



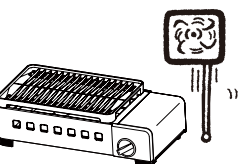
- 調理以外の用途には使用しない。

過熱・異常燃焼により焼損、火災などの危険があります。

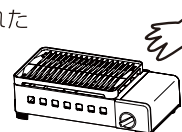
- 使用中にカセットガスグリルを傾けたり運んだりして動かさない。

- 換気(給気、排気)が十分できる所で使用する。

使用中はときどき窓を開けるか、換気扇を回して部屋の空気を入れ換えてください。閉めきった部屋で長時間使用すると、空気中の酸素が減少し、不完全燃焼による一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



- 使用中や使用後しばらくは手を触れない。
- 本製品を傾けたり運んだりして動かさない。
- 特にお子さまに注意してください。本製品が熱くなっている、やけどのおそれがありますので、手を触れたり移動させないでください。



万一異常燃焼したときや、緊急の場合はあわてずに器具せんつまみを「消火」にし、容器(ボンベ)を取りはずしてください。「故障・異常の見分け方と処置方法」(9~10ページ)を参照し、処置してください。

お願い

●点火、消火時のほか、使用中には正常に燃えているかときどき確認してください。

万ー容器(ボンベ)が過熱し内部の圧力が上昇した場合は圧力感知安全装置が働き、自動的に火が消えてしまいますので「3. 圧力感知安全装置が作動したときの処置方法」にしたがって処置をしてください。

3. 圧力感知安全装置が作動したときの処置方法

■圧力感知安全装置とは？

容器（ボンベ）が加熱されて温度が上がリ、容器（ボンベ）内の圧力が異常に高くなると（0.4MPa～0.6MPa）圧力感知安全装置が働き、自動的に火が消えます。

■処置について

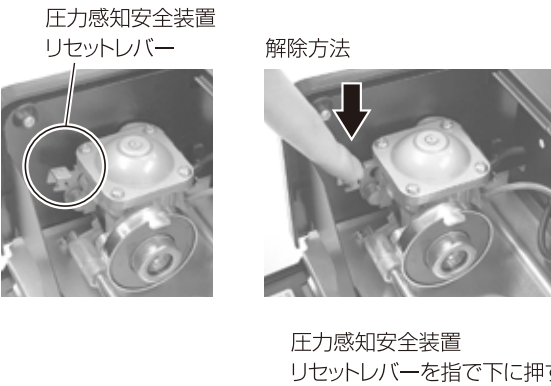
1. 器具せんつまみを「消火」の位置に戻し、調理物などを下ろしてください。

2. 容器(ボンベ)をカセットガスグリルから取り外してください。

3. 「2.特に注意していただきたいこと」をよく読んで、原因を確認してください。

4. 圧力感知安全装置リセットレバーを右記に従ってリセットしてください。

5. 再使用するときは容器(ボンベ)を冷やすか、新しい容器（ボンベ）に交換してから点火してください。



4. 仕 様

製 品 名	減煙カセットガスグリル
型 式 名	YGM-GS1
使 用 ガ ス	ボタンガス
使用容器(ボンベ)	クッキングファイヤー
ガ ス 消 費 量	約80g/h(周囲温度20℃)
点 火 方 式	圧電点火方式
安 全 装 置	圧力感知ガス通路遮断方式
外形寸法(幅×奥行×高さ)	グリルプレートセット時 399×218×125(mm)
質 量 (重 量)	グリルプレートセット時 約2.3kg
連 続 燃 焼 時 間	クッキングファイヤーボンベを使用時/約3時間7分 〔未使用の容器(ボンベ)を最大火力で全て使用したときの実測値。気温20℃～25℃〕

容 器 (ボンベ)

容 量	250 g
主 原 料	ボタンガス
使用時間	約3時間7分
容器材質	ブリキ鋼板

使用時間は、初期の最大燃焼状態で持続した場合の時間です。
容器（ボンベ）が冷えて火力が弱くなった場合は、長くなります。

5. ご使用方法

！警告

●使用前には必ずガス漏れの確認、点火・消火動作に異常のない事の確認をしてからご使用ください。

●故障または破損したと思われるものは、絶対に使用しないでください。

●容器（ボンベ）は切込み（容器ガイド凹部）を上にして正しくセットして使用してください。
間違った使い方はガス漏れ、火災の原因となります。

●容器（ボンベ）を確実に装着してください。
確実に装着しないとガスが漏れて火災の原因となります。
マグネットに鉄片や鉄粉が付着するとガス漏れや容器（ボンベ）がセットできなくなる場合があります。付着したときは、粘着テープを使って取り除いてください。

容器受けガイド(凸部)

容器ガイド(凹部)

ステム(先端部)

マグネット

！

容器（ボンベ）装着時にマグネットに付着物がないか確認してください。

粘着テープ

鉄片、鉄粉

！注 意

●器具せんつまみが「消火」の位置にないと、容器装着安全装置が働き、容器（ボンベ）が装着できません。

●点火しないまま器具せんつまみを「消火」以外の位置にしておくと、生ガスが出て危険です。

●点火の際は必ず「グリルプレート」を取り付けてから、点火操作を行ってください。

●点火操作を行う場合は、顔や手をバーナーに近づけないでください。

●点火操作が早すぎるとバーナー 内にガスが十分行き渡らず、着火しにくくなります。

●使い始めのときや容器（ボンベ）の温度が低いときには、点火しにくいことがあります。
このような場合は、点火棒（ガスマッチ等）を点火口に挿入し、点火棒に着火してから器具せんつまみを徐々に回して、バーナーに点火します。
気温が低いときや連続して使用されるときは、40℃以下の暖かい場所で保管した容器（ボンベ）のご使用をおすすめします。

●点火したとき、炎がバーナー から離れて燃焼していることがあります。異常ではありません。2～3分間、器具せんつまみを少し絞って使用してください。

●炎を小さくしすぎると、風で消えやすくなりますので、ご注意ください。

●容器（ボンベ）を取り外した後もカセットガスグリルの配管には少量のガスが残っています。危険防止のためもう一度点火して残っているガスを燃焼させてください。

●容器（ボンベ）の取り付けにくい場合には、容器（ボンベ）の先端（右図）に植物油を薄く塗ってください。

●使用中はしる受けトレイに常に水のある状態を保ってください。水が無くなるとしる受けトレイにたまった脂や調理物が燃えて火災のおそれがあります。

●長時間使用する場合は、1時間をめやすにしる受けトレイにたまった脂や調理物を取り除き、水トレイ底面から約 1 cm の高さになるように給水してください。しる受けトレイは高温になっています。必ず耐熱の手袋をご使用ください。

●しる受けトレイに水以外のものは絶対に入れないでください。

●脂身の多く含んだ肉類や魚を調理しますと、落ちた脂で煙が出たり、炎が大きくなる場合がありますので、避けていただくか、注意してご使用ください。

●ご使用後は必ずしる受けトレイのお手入れをしてください。しる受けトレイにたまった脂が過熱されて発火するおそれがあります。

容器（ボンベ）の先端

■設置前の準備

●周囲に引火物、可燃物がある場合では火災のおそれがあるので、使用しないでください。

●強い風が吹いている場所では、転倒したり、火が吹き消され、ガス漏れのおそれがあり危険です。風の直接あたらない場所を選んでご使用ください。

●水平で足場が安定した場所でご使用ください。

5

6

■使用前の準備と確認

- 1. しる受けトレイを 10cm 程度本体から引き出して、めやすとして 300cc(約 1cm ほど) を必ず注水してください。
- 2. しる受けトレイを矢印方向に、最後まで挿入します。
- 3. グリルプレート本体にセットします。

※使用中に水が少なくなったら、必ず火を消し、やけどに注意して水を注ぎ足してください。しる受けトレイの手前を持ち10cm 程度本体からゆっくり取り出し、しる受けトレイ底面から約 1cm の高さになるように給水してください。しる受けトレイは高温になっています。水の注ぎ足し時には、必ず耐熱の手袋をご使用ください。

■容器（ボンベ）の取り付けかた

下記の手順に従って容器（ボンベ）の取り付けを行ってください。誤った手順で取り付けを行うと、予期しない危険が考えられますので、ご注意ください。

- 1. 容器カバーを開けてください。
- 2. 器具せんつまみを「消火」の方向へ止まるまで回してください。器具せんつまみが「消火」の位置にないと、容器（ボンベ）がセットできない機構になっていますので、ご注意ください。
- 3. マグネットに異物が付着していないか確認してください。
- 4. 容器（ボンベ）のキャップを外し容器（ボンベ）のステム先端に異物の付着がないことを確認のうえ、容器（ボンベ）の表示（ ← この切込みを必ず上にし、容器受ガイド凸に合わせてセットしてください）の指示どおりセットしてください。
- 5. 容器（ボンベ）の切込み凹部を容器受ガイド凸に合わせ、容器（ボンベ）に手を添えて、そのまま水平にスライドさせ、完全にマグネットに密着するまで押しつけて装着します。
- 6. 容器カバーを閉じてください。

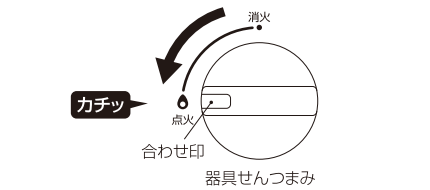
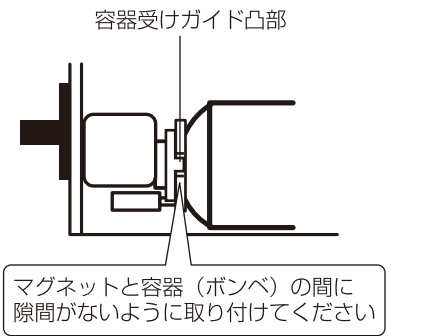
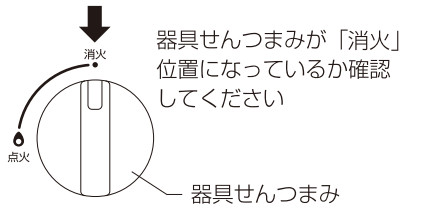
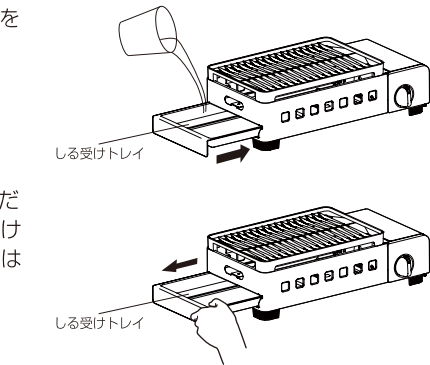
※容器（ボンベ）の取りかえについて
長時間で使用の時など、容器（ボンベ）が冷えてきた場合は火力が弱くなってきますが、故障ではありません。
別の容器（ボンベ）をご使用になるか、しばらく室温で放置すれば元の火力に戻ります。（容器（ボンベ）はガスがなくなるまで使用できます）

■操作のしかた

1. 点火

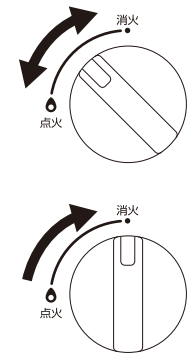
器具せんつまみを「点火」の方向にゆっくりと回し点火します。圧電点火装置がカチッと音がするまで回して着火を確かめてください。1 度でつかない場合は、再度くりかえしてください。点火しないまま、器具せんつまみを回し、点火の位置にしたままにしておくとし生ガスがでて危険です。点火したかどうかを必ず確認してください。

※使い始めのときは、配管内に空気が入っていて点火しにくいことがあります。その場合は、注意しながら数回点火操作を繰り返してください。
※点火したとき、炎がバーナーから離れて燃焼していることがありますが、これは故障ではありません。外気温の高いときや新しい容器（ボンベ）を使用したときに起こります。2～3分使用すると、炎が安定しますので、安定するまで少し器具せんつまみで調整してご使用ください。



2. 火力調節

器具せんつまみを「点火」の方向へ回すと火力が強くなり、「消火」の方向にゆっくり回すと弱くなります。弱火で使用されるときは、特に風に注意してください。



3. 消火

器具せんつまみを「消火」の位置にもどすと、ガスが出るのがとまり、火が消えます。

4. 容器（ボンベ）の取り外しと保存

消火後は容器カバー・容器（ボンベ）が熱くなっている場合がありますので、熱が冷めてから下記にしたがって取り外してください。
器具せんつまみを「消火」の位置に合わせてから、容器カバーを開けます。容器（ボンベ）の底を持ち上げながら取り外します。使用後は、その都度、必ず容器（ボンベ）を取り出し、容器キャップをかぶせてから、40℃以下のところに保存してください。ストーブ、こたつなど、他の熱源の近くに絶対に置かないでください。また、使用済みの容器（ボンベ）は火中に投げ入れないでください。

6. 日常の点検・お手入れ

- ご使用後は、そのつど必ずお手入れをしてください。
- 点検・お手入れは、必ず容器（ボンベ）を取りはずし、器具が十分に冷めてからはじめてください。
- 手、指の保護のため、必ず手袋などを使用してください。
- 必ずしる受けトレイの掃除をしてください。
- ガス通路部分は絶対に分解しないでください。
- 故障または破損した状態で使用しないでください。ご家庭での分解は絶対に行わず、10 ページの「8.アフターサービス」をご確認ください。
- 長時間使用しない場合
長時間使用しない場合は、以下の表にしたがって手入れをした後、湿気の少ない場所に保管してください。なお、その際、容器（ボンベ）は必ず取り外し容器キャップをかぶせて40℃以下のところに保管してください。特にストーブなど他の熱源のそばには絶対に保管しないでください。ときどき点検して、さびたりしないように手入れを行ってください。

本 体	● お湯で薄めた中性洗剤をしみこませた布で汚れを十分にとった後、お湯ですすぎしぼったきれいな布で、もう一度ふき、十分乾かしてください。 ※シンナー、ベンジン、みがき粉、ナイロンタワシ、金属製のタワシなど、傷がつきやすいものは使用しないでください。 ※本体の丸洗いは絶対にしないでください。 
バ ー ナ ー	● バーナーが目づまりをおこすと、不完全燃焼をおこし危険 です。穴がつまって炎が不ぞろいになったときや汚れがひどいときは、金属ブラシや千枚通しなどで掃除してください。（この時、電極部の位置を動かさないようにしてください）
グリルプレート しる 受けトレイ	● 油や汁で汚れたままにしておくと、腐食を早めます。ご使用後は必ず取りはずし台所用合成洗剤（食器用・調理器具用）をうすめたぬるま湯の中で洗ってください。 ※シンナー、ベンジン、みがき粉、ナイロンタワシ、金属製のタワシなど、傷がつきやすいものは使用しないでください。 ● 洗った後は、お湯ですすぎ清潔な乾いたふきんで水分をふきとってください。
電 極 の 汚 れ (点火しなくなった場合)	● お手入れのとき器具せんつまみを点火方向に操作すると感電することがありますので、ご注意ください。 ● 電極の汚れは乾いた布でふきとってください。（このとき電極の位置を動かさないでください）

7. 故障・異常の見分け方と処置方法

つぎの表を参考にして、処置してください。

現 象	原因											処置方法
	容器（ボンベ）がセットできない	ガスの臭いがある	点火しない	点火しにくい	バーナーに火移りしない	炎が安定しない。黄炎で燃える	炎が不ぞろい	火力が弱い	使用中に消火した	消火しない	器具せんつまみもガスがもれる	
器具せんつまみが「消火」になっていない	●											器具せんつまみを「消火」にしてセットする
器具せんつまみが全開ではない								●	●			器具せんつまみを全開にする
点火操作が適切ではない		●	●	●								正しい点火操作をする
圧力感知安全装置の作動			●						●			安全装置についての説明の項を参照する
器具せんつまみ、点火装置の不良		●	●	●						●	●	点検修理を依頼する
ガス通路がつまっている			●		●	●		●	●			点検修理を依頼する
他社容器（ボンベ）を使用している	●	●		●							●	クッキングファイヤー用の容器（ボンベ）を使用する
容器（ボンベ）セット不良	●	●	●								●	容器（ボンベ）の表示通り、切込みを上向きにしてセット
バーナー炎口部の目づまり			●	●	●	●	●	●				金属ブラシなどで目づまりを取り除く
電極部の汚れ			●	●								汚れを取り除く
圧電点火装置が不良			●	●								点検修理を依頼する
ガスが少なくなっている				●				●				新しい容器（ボンベ）に取り替える
ガスがなくなっている			●		●				●			新しい容器（ボンベ）に取り替える
マグネットに鉄片、鉄粉が付着	●	●										粘着テープで鉄片、鉄粉を取り除く
本体が変形している（歪み）	●	●										点検修理を依頼する

※室温や容器（ボンベ）の温度が低い場合には、炎が小さくなる事がありますが、器具の異常ではありません。
※容器（ボンベ）を保持するマグネットがぐらつきますが、器具の異常ではありません。

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、次の点検をしてください。
それでも異常のある場合は、お買上げの販売店まで保証書を添えて、商品をご持参してください。誤った修理は、火災や感電などの危険な事故につながります。ご家庭での分解修理はなさないでください。

現 象	原 因	処 置 方 法
点火しにくい ●電極から電極ガードに火花が飛ばないで違うところに飛んでいる。 ●急に火花が飛ばなくなった。	●電極と電極ガードとの間隔がずれています。	●電極と電極ガードとの間隔がずれると火花が飛ばなくなったり、別の方向に飛んで点火不良になります。火花の飛ぶ方向を調節してください。
	●電極の白い部分（セラミック）に水滴が付着しているか汚れています。	●水分、汚れにより漏電しています。水滴や汚れを取り除いてください。
使用中、容器（ボンベ）にガスが残っているのに火が消えた。	●異常な使用のために容器（ボンベ）の温度が高くなって、圧力感知安全装置が働いています。	●5ページの「圧力感知安全装置」が作動した時の処置方法に従って復帰させてください。
容器（ボンベ）が装着できない。装着してもすぐはずれてしまう。	●保管場所の温度が高く容器（ボンベ）の温度が高くなり、圧力感知安全装置が働いています。	
	●マグネットに異物が付着しています。	●6ページの「ご使用方法」に従って異物を取り除いてください。
	●器具せんつまみが「消火」になっていません。	●器具せんつまみを「消火」方向に止まるまで戻してください。
点火ミスにより繰り返して点火した場合に「ポッ」という音がして少し炎が上がる。	●点火ミスにより、ガス経路にガスが残っています。	●故障ではありません。そのままお使いください。 ※点火操作を行う場合は、顔や手をバーナーに近づけないでください。
消火時に「ポッ」という音がする。	●製品の特性上、火が消えたときに音がする場合があります。	●火が消えたときの音で異常ではありません。そのままご使用ください。
購入して初めて使用すると電極が赤くなる。	●製品の特性上、電極が赤くなります。	●数回使用すると赤い炎は消えます。そのままご使用ください。

8. アフターサービス

■サービス(点検・修理)を依頼される前に

- (1)9 ～ 10 ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見て、もう一度ご確認ください。
 - (2)確認の上、それでも不具合、あるいはご不明な場合、ご自分で修理なさらずに、お買上げ販売店もしくは「山善 サポートセンター」にご連絡ください。
 - (3)アフターサービスをお申しつけのときは、次のことをお知らせください。
 - 1.製品名 2.型式名(銘板表示のもの) 3.現象(できるだけ詳しく)
- ※ 製品の品質管理には、万全を期していますが、万一、容器（ボンベ）が原因でガス漏れが発生した時や製品が故障した時は、お買上げの販売店もしくは「山善 サポートセンター」にご連絡ください。また、不審な点がございましたらお問い合わせください。

■故障・修理の際の連絡先

修理・故障などのアフターサービスについてご不明な点はお買上げの販売店か、右記へお問い合わせください

この商品についてのお問い合わせは「山善 サポートセンター」
 **0570-002-112**
受付時間 午前10時～午後5時30分（土・日・祝祭日・年末年始を除く）

■補修用性能部品の保有期間について

本商品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）は製造打ち切り後、5年間保有しています。